

OH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBO
OH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBOLDII SAKURASOH PRIMULA SIEBO

さくらそう通信

2号
1995.11.10



田島ヶ原のサクラソウ自生地（平成7年4月）



埼玉さくらそう会の概史

竹花芳男

昭和31年6月、浦和市在住の岡田実氏の呼びかけで、山野草の愛好家の集りで埼玉山草会を設立し、山野草の栽培と研究をモットーに盛んに活動をされていましたが、ある一部の人から「園芸種さくらそうは優雅な花で美しいが、いわゆる山草とはいささか趣が異なるのではないか」という意見がでて、さくらそうを専門に栽培、研究する会をつくろうと言うことで有志が集り昭和42年2月28日、日本さくらそう同好会が設立され、初代会長に故松井計郎氏が就任し、活動を開始したのが現在の埼玉さくらそう会の始まりとなった訳であります。此のことについて先輩格の「東京さくらそう会」では、当時の機関紙で、「さくらそうの本場（本家）は、こちら」とい

うことを伝えていました。浦和としてはいささか遅れをとった感じがあり、さくらそう界発展のためには愛好者が増えることはこの上もない喜びであると云うことで、会員勧誘に努力してまいりました。会の役員構成は、花界の大御所松井計郎氏を始めとし、幹部に近藤米吉氏、菅沼満氏、岡村正雄氏（現会長）、太田森五郎氏と、その道の知名人から編成されており、以来今日まで設立の理念を忘れることなく今に伝えられてきました。現在会員数は310名を数え、保有品種も約300種となっており、その発展振りを知ることができます。しかしこれまで幾多の難題と苦労は大変なものがあり、例えば、展示会一つ見ても昭和45年4月には埼玉会館、昭和46年4月には別

所沼県立美術館と転々とし、昭和47年4月から玉蔵院会場になって以来、現在に至っている訳であります。今日のさくらそう会の発展を見るに至った基礎的な要因は、役員や会員の協力と努力もさることながら、故松井会長の主幹力に負うものが多く、忘れられないことがあります。月日のたつものは早いもので、埼玉さくらそう会も通算創立30周年を迎えることとなります。思い出の多い30年ではないかと思っております。昭和56年11月には、埼玉県の「シラコバト賞」の受賞などがあり、大いに喜びを感じたことでした。本年も前述した通り、設立当時想像もしなかった会員の増加現象等があり、会の近代化とサービスの充実が急務ということの一つとして、

平成元年より埼玉さくら草同好会を解消して埼玉さくらそう会と改め、更に充実した活動を展開してゆく所存であります。
(埼玉さくら草会副会長)



園芸種「三保の古事」
(竹花氏作。写真提供も同氏)

さくら草と私

私がさくら草に関心を持ったのは、昭和37年4月浦和市のさくら草まつりが田島ヶ原の原野で行われたときである。河川敷といっても民有地であり、そこを借りてのレクリエーション行事であった。草ぼうぼうの中に点々と桃色のさくら草が咲いていた。中学のとき以来、生物に興味を持った私は植物の観察に夢中となり、村越三千男編の日本植物図鑑を片手によく野山を歩いた。しかし不思議とさくら草には出会わなかったし、関心もなかった。田島ヶ原のまつりは以後数年の間、用地買収や公園整備のため、会場を別所沼公園に移して行われた。さくら草の開花を愛でてのまつりにはさくら草がなくてはならないものだった。当時、埼玉山草会の会長さんだった岡田実先生（故人）がさくら草の園芸種を沢山お持ちで、それを別所沼公園の美術館に展示して下さいました。野生のさくら草からこんなに多くの園芸品種が出来たのかとえらく感心したものだ。以来、山草会、後に分かれてさくら草会に入れてもらい苗を

石井正夫

いただいたり、見学会などに参加したりして興味を募らせた。自分だけで野山に出かけるときも、さくら草の自生しているような湿地や河川流域を中心に歩くようになった。昔は荒川流域には至る所に自生していたというが、今は、田島ヶ原以外では桶川と朝霞の一部でしか見られない。

私の歩いた赤城、那須、軽井沢、野辺山などもいつまで咲いてくれることか。

浦和のさくら草の行政との係わり合いは、昭和29年にNHKが郷土の花として選定して以来、実質県の花として親しまれており、昭和46年に埼玉百年の記念事業に正式に県花となった。翌47年に浦和市も市花に制定した。以来、県や市では品種パンフレット等で紹介したり、品種の保存、栽培を行うなど力を入れており、特に浦和市では花のデザイン使用の他、品評会、展示会をまつりと併せて実施しており、市民はもとより遠方からも花を見に、苗を求めに会場は賑わっている。係わり合いの中で最もユニークなのは、国際さくら草研究センター構想であろう。浦和市が他に類を見ない植物の一分野の研究機関を設置しようとするころみは、その筋の専門家は勿論、一般の人々からも注目的となると思う。かつてアメリカでプリムラ属（サクラソウ属）の国際会議が行われたことがあり、浦和からも参加したことは聞いているが、さくら草のメッカとして世界に名が知られることは画期的なことと思う。造るにあたっては施設、場所等色々大変だと思うが世界中のさくら草が浦和で一堂に会して見られるのはいつの日になるか。かつて岡田先生も言っておられたことだが楽しみである。
(浦和市役所都市計画部参事)



昭和47年 さくら草まつりでの展示
(写真提供 浦和市広報広聴課)